

教えてドクター

一生に一度は「肝炎ウイルス検査」を受けましょう

肝臓に炎症を起こす「肝炎ウイルス」には種類がありますが、日本で感染者の多いB型肝炎とC型肝炎は、気づかいうちに長く感染が続き、肝硬変や肝がんへ進行することがあります。どちらも自覚症状がほとんどないため、感染していても気づかないまま病気が進むことがあるのが特徴です。

感染の多くは血液や体液を通じて起こりますが、日常生活の会話や握手、食事でのうつることはほとんどありません。また、蚊に刺されても感染しませんので、過度に心配する必要はありません。

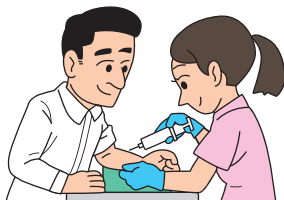
検査や治療について教えて！

肝炎ウイルスに感染しているかどうかは、血液検査で簡単に調べることができます。特に、過去に輸血や大きな手術を受けたことがある方、家族に肝炎ウイルスに感染している方がいる場合は、一度

検査を受けておくと安心です。県内の保健所や一部の医療機関では、無料で検査を受けられる制度もあります。鹿児島大学病院「肝疾患相談センター」のホームページには、無料検査が可能な医療機関の一覧が掲載されています。

治療は近年大きく進歩しています。C型肝炎は飲み薬だけで治る時代となり、2～3か月の内服でほとんどの方がウイルスを体から消すことができます。B型肝炎はウイルスを完全に消すことは難しいものの、薬でウイルスが増えるのを抑え、病気の進行を遅らせることができます。どちらの治療薬も副作用が少なく、安全に使えるものが多いです。また、医療費の負担を軽くする制度も利用できます。

肝炎は、早く見つけて治療を始めることが何より大切です。簡単な検査で調べられますので、ぜひ一生に一度は肝炎ウイルス検査を受け、健康を守りましょう。



DOCTOR

今回の教えてドクターは…

鹿児島大学病院 肝疾患相談センター
副センター長 小田 耕平 先生



- HBs抗原(+) : B型肝炎ウイルスに感染している
- HCV抗体(+) : C型肝炎ウイルスに感染したことがある

どちらか陽性(+)なら

まず、精密検査で肝臓の現在の状況を調べましょう

□ウイルス量検査(採血は1、2分)

肝炎ウイルスの有無やウイルス量を調べます

□超音波検査(約20分)

超音波で肝臓の状態を調べます

肝臓は「沈黙の臓器」と呼ばれ、肝炎が進行していても自覚症状がないことがあり、高齢になると病状の進行も早くなります。



鹿児島大学病院
肝疾患相談センター ⇒

